

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	安全な環境で、できることは最後まで自分でするような介護を進める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内や隣近所の人からの相談には常に気軽に応じている。	○	精神障害者作業所に準じた制度があれば、簡単な作業を引受けられるときがある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	このようなしくみを待たずに常に介護品質の向上に取り組んでいる。こんなやり方に意義があるとは考えていない。ただし、外部評価のいわんとするところは考慮して介護に生かしている。		外部評価をするならするで、評価項目を要員配置(週当たりの要員配置時間数)、決算状況(人件費率、利益率)、食事の提供形態(内製率)などに絞り、それを5段階程度に評価して簡潔に公表すべきである。そのように要望していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価と外部評価の差を検証している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特段の用件もないのに役所に出入りすれば担当者の仕事の邪魔になる。役所の方から働きかけがあればいつでも応じる用意はある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修も受け支援することに備えているが、今のところ対象者がいない。ただし、制度そのものについては定期会議で職員に通達、周知を図っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の要は介護員の労働条件の改善にある。せめて、職場の風通しをよくすることとサービス残業をさせないことに努めている。また、虐待を伝える新聞記事などは全員に配布して啓蒙を図っている。	○	今の労働条件と研修内容ではいつでもどこで虐待が起こっても不思議とは思わない。「勤務時間内にできないことはしなくていい」という研修の必要性を訴えていく。

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左のとおり実践している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	左のとおり実践している。職員は常に利用者の状態を見て対応している。対応に苦慮する場合は介護会議で討論している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	左のとおり実践している。個人日誌の閲覧、定期的なたよりを発行紙必要に応じて手書き、個別の情報を伝えている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	左のとおり実践している。ただし、「家族等が・・・外部者へ表せる機会」とはどういう場をいうのか意味がわからない。家族はいつでもどこへでも表せるはず。毎月のたよりには電話番号はもちろん常にメールアドレスを記載しているし玄関には意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	左のとおり実践している。会議は定期的開催し管理者はいつでも職員の話聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	左のとおり実践している。行事、外出、病気などの状況に応じて職員の追加配置を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所1つの当ホームで異動の余地はない。	○	この業界の人手不足はいよいよ深刻で余っているのは足腰立つ老人の労働力だけである。従って、老人が老人の介護に従事して報酬を得ても、その人の年金は減らされないような制度を創設すべきである。そのように要望していく。

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	左のとおり実践している。研修会の参加を促しそれを勤務時間に算入し研修資料は全員に回覧し定期会議で報告している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	左のとおり実践している。他のグループホームとの交換実地研修を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	左のとおり実践している。機会があるごとに職員一人ひとりとの面談に努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	左のとおり実践している。研修会の案内を周知し介護に関わる参考書は事業所で購入、貸し出しを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	左のとおり実践している。職員は利用者の状況を注意深く観察し必要に応じて会議にかけ共通認識を深めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	左のとおり実践している。面会時にはご家族の話を十分に聞き、特別な要望などを含め管理者は常に報告を受けている。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	左のとおり実践している。職員一人ひとりが見極めることに努めており必要に応じて会議で討議している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「サービスをいきなり開始する」ことを除いて、左のとおり実践している。グループホームは試験的に短期間利用するしくみにはなっていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	左のとおり実践することに努めている。職員が本人の生き方を否定することはしない。	○	死の避けられないことを話し合える機会をつくっていききたい。また、本人の意識が鮮明であったときの死生観を家族から聞ける機会をつくっていききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	左のとおり実践することに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	左のとおり実践することに努めている。	○	関連する事物についても過去との関係を大切にしていける。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	左のとおり実践することに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	左のとおり実践している。だれかが孤立しないように全体の交流に努め各人の得手不得手を考慮して役割分担を図っている。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	左のとおり実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左のとおり実践している。職員は傾聴に努め希望や意向をその時に応じて判断して介護につなげている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左のとおり実践している。職員は事前の調査書などにより今までの生活歴を把握しそれを受容したうえでの介護に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	左のとおり実践している。職員は健康状態や心理状態に応じて一日の過ごし方を工夫している。	○	人の心身の状態は日を追って変化していくものであるから、誤認や決めつけをしないように注意していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	左のとおり実践している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	左のとおり実践している。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左のとおり実践している。バイタルチェックを含め毎日の介護日誌の記帳を的確に行い供覧している。言動、態度など変化のあったことは細かく記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老人グループホームの「多機能性」の意味がわからない。外出、四季折々の行事、誕生会、地域行事への参加、NPO法人や個人ボランティアの受け入れは以前から実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	左のとおり実践している。ただし、今のところ警察とは接触がない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	全額自己負担以外に、他のサービスを利用できる制度にはなっていない。よって左のような支援をする余地はない。	○	せめて2割負担ぐらいで、日帰り介護(デイサービス)を利用できるような制度の創設を要望していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、運営推進会議以外に、地域包括支援センターと協働するような場面はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科は当ホーム協力医院の医師がかかりつけ医である。内科・歯科以外の診療科は当ホーム協力病院及び近所の医院の医師がかかりつけ医である。入所時にこのことの納得を得て、適切な医療を受けられるように支援している。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>左のとおり実践している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>左のとおり実践している。看護師は定期的に同じ人が来てくれており職員はその指示通りに健康管理に留意している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>左のとおり実践している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>左のとおり実践している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>左のとおり実践している。職員は一日一日の状況を細かく引き継いでおり、痛み、かゆみの有無などを常に確認している。急変の際には非番の職員が10分以内に駆けつけられる体制をとっている。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>左のとおり実践することに努めている。</p>	○	<p>個人情報保護の趣旨を正確に理解できず、これを盾に情報を秘匿するところがある。 このような事業所とは情報交換のしようがない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	左のとおり実践している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	左のとおり実践することに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左のとおり実践することに努めている。職員側の決まりや都合を優先しないのはあたりまえだが、妄想のある利用者の希望ばかりを聞いてもらえないときはある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	左の前段はそのとおりに実践している。後段は、保険給付と当ホーム利用料の枠内では実践できない。必要に応じて理容師、美容師に来てもらっている。57番入浴の項目と同様この評価項目は馬鹿げている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	左のとおり実践している。食事は年中目の前での手作りであり季節感を生かした栄養のある食事作りに努めている。後かたづけは特定の利用者に偏らないよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	左のとおり実践することに努めている。おやつは趣向をこらしできるものはみんなでつくるようにしている。酒は勧めはせず望む人にだけ出している。	

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	左のとおり実践している。当ホーム独自の記録方式を発明し、簡易、明解に傾向を把握できるようにしている。日中はもちろん夜中もオムツの利用を減らしトイレ誘導を最優先している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	保険給付と当ホーム利用料の枠内で、左のとおり実践することはできない。介助に要する人件費を自己負担せずに深夜早朝の入浴を希望されても応じられるわけがない。この評価項目をつくった人は介護に要する経費とその負担を真面目に考えているのか？		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	左のとおり実践することに努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	左のとおり実践することに努めている。	○	家族・知人等と一緒に過ごせる時間の拡大、そのための楽しみ事の考案、自主的な奉仕活動者の募集等に努める。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の自己管理は原則としてお断りしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	保険給付と当ホーム利用料の枠内で、「一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かける」ことはできない。毎朝夕、グループでの散歩には職員が同行している。この評価項目も53番美容室、57番入浴と同様である。先生方は介護の現場と経費の負担を真面目に考えてほしい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	保険給付と当ホーム利用料の枠内で、「一人ひとりが行ってみたいところへ個別に」行くことはできない。他の利用者とともになら行くことはある。例えば、祇園祭宵山、花見、紅葉狩りなどである。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左のとおり実践している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	左のとおり実践している。知人・友人の面会に家族の同意書を求めることはない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	左のとおり実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	左のとおり実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当ホームは2階建て1ユニットであるので、階段の降り口に昼間は通行禁止ベルト、夜間は見通しのきくシャッターを使用している。また、居間や台所、階段には凸面反射鏡を設置している。なお、利用者が1人でも2階にいるときには昼間でもシャッターを使用する。	○	昼間の通行禁止ベルトに不安がある。呼び出し鈴は設置しているがわかる人が少ない。階段昇降時には同行することに努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	左のとおり実践している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	左のとおり実践している。しかし、事故をゼロにすることはだれにも不可能であることから、起こった時の対応についても重視している。当ホームでは夜勤者1人のほかに宿直者最低1人を配置している。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	左のとおり実践することに努めている。	○	交代で研修に参加させ、定期的に訓練することに努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	左のとおり実践している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	左のとおり実践している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	左のとおり実践している。食事、水分、排泄、バイタルを記録し、体調の変化に最新の注意をはらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左のとおり実践することに努めている。服薬はそのつど一人ひとり手渡し飲み込むまで確認している。	○	心身の不調が出てきた場合、副作用との関連に常に注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	左のとおり実践している。下剤の使用をなるべく控え、食事、水分、運動に注意して予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	左のとおり実践している。毎食後の口腔介助を励行している。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左のとおり実践している。各個人に合わせた食事摂取量とし水分補給の量と種類を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	左のとおり実践している。外出後や面会者の手洗い、うがいを徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	左のとおり実践している。 食材は毎週生協から一括購入、不足分は随時購入、配食サービスは一切利用せずその場で調理したものをその場で出し、食べ残しは全量廃棄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	左のとおり実践している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左のとおり実践している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左のとおり実践している。		

介護老人グループホーム寛寿庵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左のとおり実践している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	左のとおり実践している。トイレと携帯便器の清掃は行事や外出に優先する業務と位置づけており、毎朝の窓の全開も手順化している。閉める時間は季節、天候、気温、湿度によって異なる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	左のとおり実践している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	左のとおり実践している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	左のとおり実践している。庭には四季折々の花が絶えないようにし、花壇への水やりはなるべく利用者に任せている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

介護老人グループホーム寛寿庵

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

木造2階建ての民家。ここはスイッチ1つで管理される空調設備はなく、施設用の大きな浴室があるわけでもありません。利用者が落ち着ける我が家に近い空間を提供しています。寒暖の差を自分で感じ取り気温や湿度に応じてみんなでごまめに調整することができます。お風呂は職員と和気あいあいと話しながらゆったりと入れます。利用者は職員と濃密なコミュニケーションを取ることができます。時には職員が利用者から励まされ慰めをもらったりします。利用者本人が自ら洗濯物を干し、掃除や食事の後片づけを手伝い、お客様扱いをされることはありません。今まで過ごしてきた普段通りの生活に近い環境です。入れ物づくりのハード面も重要かもしれませんが大理石やシャンデリアが介助をするわけではありませんし、特に認知症者に対しては職員や家族や周りの支援者を含めた人と人とのコミュニケーションというソフト面がもっとも重要だと思います。そのためにまず職員同士のチームワークと共通認識の醸成に最大限の努力をしています。老後の人生に美辞麗句を並べる人々と一線を画していることが自慢です。